

# 小木工品等の販売と今後の取組みについて

局・経理課収入係 吉原 昭 司  
横 前 實

## 要 旨

森林資源の有効利用を図るため、職員のアイデアと、手待ち時間により、木曾ヒノキ等の枯損木から、花台等の小木工品等を、営林署において製作し、営林局に集めて即売した結果と、今後積極的に推進するために、各出品物ごとに説明するものである。

## はじめに

国有林が有する森林資源の有効利用を図るため、今年度の事業方針に「新たな商品化とその販売推進」が定められ、各署ともこれに基づき一署一品運動を展開している。

この運動のなかで職員がそれぞれアイデアを出して少しでも収入確保になるならばと、手待ち時間を最大限活用して製作した小木工等が、数多く営林局に集まった。これを国際森林年にちなみ開催された「国際森林年記念森林の市」「信州グリーンフェスティバル」及び「フォレスポ'85国有林森林物産市」等において展示即売したところ、自然のまゝの木のぬくもりに関心が集りそれぞれの会場で好評を得たので、その結果を報告し、今後の小木工品等の製作の参考となれば幸いである。

## I 60年度販売実績等

表一 60年度販売実績表 (営林局扱いのみ)  
60年12月現在 (単位：千円)

会場名	日数	出品物数	販売額	備 考
東 京	(1)	文 鎮 外	(453)	(は59年度分)
	2	27 点	399	
長 野	(1)	花 台 外	( 99)	営林局にて随時 販売金額含む
	2	31 点	767	
松 本	(2)	花 台 外	(301)	
	1	23 点	179	
計	(4)		(853)	
	5		1,345	

## II 出品物ごとの概要

### 1. 花台 製作署、大町、伊那、上松、上運

(1) 木曾ヒノキの変形木(径平均28cm厚さ平均10cm)を輪切りにして、皮を剥ぎ研磨し日割れ防止のため薄くボンドを塗布し出品した。

木曾ヒノキの木目の美さと形状の面白さがお客に受けて、グリーンフェスティバル、松本会場では人気があったが東京会場では重量があり敬遠された。

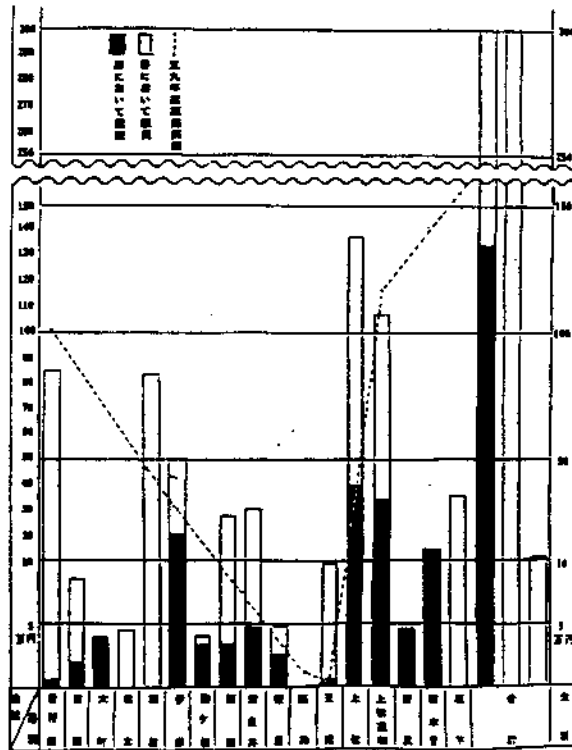


図 1 木工品等販売額実績調べ

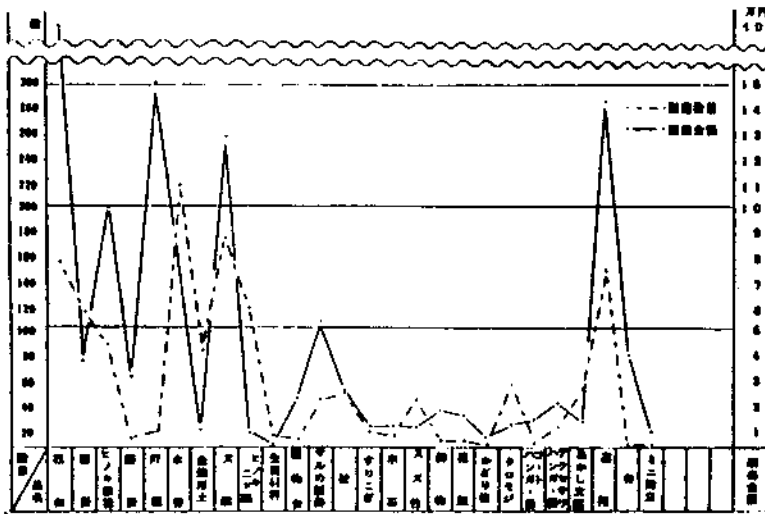


図-2 品名別、販売数量と販売金額表 60年12月現在

(2) 木曾ヒノキの根株の形質の良い物を掘取り、根張りを出して研磨のうえグリーンフェスティバルに出品したところ、特殊な花台であったが販売できた。

購入者は、大きな壺、木彫の仏像等の台にするとのことである。

(3) ヒノキの枯損木で割れが入った材（径平均24cm厚さ平均12cm）を輪切りにし樹幹を焼付けして出品した→春の営林局会場では人気があったが、グリーンフェスティバルでは人気がなかった。

(4) ヒノキ及び広葉樹の板に足をつけて出品したが売れ行き不振であった。

(5) その他カエデ、イチイ等で製作した花台は売れ行きは良かった。

## 2. 壁掛 伊那, 上運

木曾ヒノキの枝を厚さ2.5cmに斜切りして、ヒモをつけて出品したところ数量も少かったが好評で売行きは良かった。

ヒモがついているので、適宜に文言を書いて掛けて利用できるとの評である。

## 3. ヒノキ根株 駒ヶ根, 奈良井, 上松

ヒノキの打出し木を樹皮を剥いた物、ついたまゝの物を出品したところ普通では手に入らないため人気があった。東京会場では、交通機関を利用して会場へ来ているので、重量があり又大きいため敬遠された。

利用方法は、植木鉢台、腰掛、子供の踏台、彫刻用等とさまざまであったが、上下が水平の物から先に売れていった。

## 4. 腰掛 上運

木曾ヒノキの枯損木（径平均20cm高さ45cm）で節の赤味を出し樹幹を焼付け出品した。東京会場はヒノキの打出木と同じく人気はなかった。

お客の意向は、外に置くにはもったいなく家の中では持ち運びに不便とのことであった。

## 5. 灯籠 伊那

コメツガ、カエデの空洞木を利用して製作した物で、特殊な品であったが好評であった。

## 6. 水苔 上松

春の鉢物の植替え時期で需要期でもあった東京会場では、軽くて持ち運びに便利であり市価より安く、品質が良いと好評であった。長野、松本会場は秋であったため不振であった。

## 7. 盆栽用土 岩村出, 藪原, 南木曾

花崗岩の崩壊土、浅間ガラスを1袋2～4kg詰にして出品したが、東京会場では重量があり持ち運びに不便のため人気がなく、長野会場も秋のため需要がなく不振であった。

## 8. 文鎮 上運

森林鉄道の軌条を2, 3, 5cmに切断し、東京会場に出品した。かつての運材の花形機関車「ゴールドウイン」を会場に展示しその横で東京営林局、長野営林局共同で販売したところ好評でほとんど1日で売切れた。

長野局の場合研磨して出品したが、東京局はサビをつけたまゝ出品したところ、この方がよく売れた。又軌条に製造年、極印等が刻まれた特殊な品に人気があった。グリーンフェスティバルにも出品し好評であった。

## 9. ヒノキニツ割 野尻

径平均5cm、長さ1mのヒノキの末木をニツ割りにして、日曜大工用として出品した。

購入者の使用方法は、縁台、植木鉢の台、垣根の修理用等である。

10. 生花材料 土滝

木曾ヒノキ等の伐根が年月を経て河川に流出した物を手をかけないで生花材料として、春の東京会場へ出品したところ数量も少かったが売切れた。

購入者は、根上りの菊を仕立てるときに利用、又は磨いて飾物等にしようである。

11. 置物台 伊那

イチイの空洞木を利用して製作し、花台としても使用できる物であるが、先に説明したヒノキ及び広葉樹の長方形の花台と同じく人気はなかった。

イチイの表面の赤味が人工的に着色したのではないかとの質問があり、石灰を水に溶いて塗布、乾いてから拭きとる旨説明した。

12. サルの腰掛 伊那、駒ヶ根、飯田、藪原

飾物として出品しどこの会場でも大きい物が売れ小さい物は残った。

中には薬にすると行って購入していったお客もいる。

13. 杖 白田、上松

ジャクナゲ及びヒバで製作した杖を出品した。ジャクナゲの杖は縁起が良いと好評であった。ヒバの杖も弾力があり軽いのでまあまあの売行きであった。

14. すりこぎ 白田

サンショウの木を利用して製作し出品したところ、好評で早い時期に売切れた。特にテレビニュースで放映された関係もあって、その後も相当のお客が見え残念がっていた。

15. 水石 飯田

天竜系の水石を出品、重量はあったが格安のためか良く売れた。

16. スズ竹 飯田

菊の添木として出品したが、出品が秋のため需要期がはずれており売行きはよくなかった。

17. 飾物 上松

造林地の除伐後数年経た広葉樹の根株の芯が、雨等により腐朽し空洞になった物を飾物又は一輪差しとして出品。自然のまゝを利用したところが好評であった。

18. 花びん 上運

木曾ヒノキの枝の赤味を利用し加工した物を出品、自然のまゝの趣がないためか人気はなかった。

19. 飾柱 上運

木曾ヒノキの末木で節の赤味を出して、飾物又は人形等を乗せて飾るために出品。高さ（45cm）の割に径（12cm）が小さいとの話があり人気はなかった。

20. クロモジ 奈良井

クロモジ独特の芳香を放つ高級妻揚子の作成材料としてその素材に説明書を添付し出品。採取時期との関係か芳香もあまりなかったので売行不振であった。

21. コートハンガー掛け 野尻

除伐したヒノキを長さ2mに切り枝を10cm残し皮を剥ぎ、ヒノキの打出し木を台にして出品・本数も4本と少かったが即日完売できた。

## 22. アクセサリー掛け 野尻

コートハンガー掛けを小さくした物で高さ75cm、上部にヒモをつけて壁際等に掛けて使用する物と、家の中の角に立てるためヒノキの枝を斜切りした台をつけた物とを出品、販売した。

## 23. あかし文鎮 野尻

木曾ヒノキの枝の赤味（あかし）を利用し、長さ16cm巾2.5×3cmの長方形を製作品、書道の先生がまとめて購入したこともあって売切れた。

## 24. 茶托（コースター） 南木曾

木曾ヒノキの枝を5～8%の厚さに輪切りにし、研磨のうえウレタンを塗布して3枚入れ（径10cm）5枚入れ（径8cm）6枚入（径6cm）の3種類を製作品、特に小さい物が好評で、大きい物は小品盆栽の台に販売できた。

## 25. 台 上運

木曾ヒノキの伐根（径70～80cm厚さ10～20cm）を円盤にした物を2個出品。グリーンフェスティバルでは引き合いはなく、東京会場で10cm物が終了間際に来たお客が購入し、松本会場で20cm物を菓品会社の社長が大きい壺を乗せるため購入していった。

## 26. ミニ衝立 上松

木曾ヒノキの変形木の花台とする物に足をつけて2個出品。価格が高いためか人気はなく1個販売できたのみで1個は売残ってしまった。

## 27. 根株 上松

グリーンフェスティバルに木曾ヒノキの大きな根株を3個（重量約1～3t）出品。一つは1株に木曾ヒノキが5本立となっているもので、径が2m、高さが1番高い切株で3.4m、低い切株で1.5mと段差をつけた根株である。これを五芯木と命名し出品したところ、1本1本に観音像を彫刻するというお客があり40万円で販売できた。他の2個については営林局玄関に展示し今年になってから1個が販売できた。

## Ⅲ 今後の取組み

### 1. 製作等について

昨年度及び本年度販売した結果をみると、お客の意向としては自然のまゝで木のぬくもりが感じられるような物を希望している。人手をかけ一般に市販されているものと同視されるような品物は敬遠される傾向にあり、形状、品質共これ一つしかないという物が好評である。

収入の確保と共に資源の有効活用を図るために次のようなことを検討したらどうか、提案したい。

(1) 採取時期の検討。(2) 自然のまゝを取り入れる。(3) 乾燥を考える。(4) コウヤマキ、コメツガ等生花材料の採取。(5) タラの芽等の採取。(6) 枯損木、枯根株等からの製作。(7) 樹皮、落葉、葉草、水石等の採取。

### 2. 販売について

国有林の場合、宣伝が不足しているといわれている。今回クリスマスツリーを販売したところ、営林局玄関前に一枚立看板を出したのみの場合、自家用車からは見えにくく、売行きは悪かったので、営林局の近くのアパートにチラシを入れたところ、口コミもあり多くのお客が見えた。

国有林も立木、素材の公売広告等の余白に小木工品等も即売している旨印刷してPRする必要が

ある。

販売については、国の場合値引きすることはむづかしいが、お客と相対して販売しているので、ある程度の値引きをするか、又はサービス品を置いて必要に応じ付けて販売を促進する必要がある。

又大きな即売会は、数多くできないので常設展示場所を設けるなり、官公庁等へ販売に出向くことも必要である。

#### おわりに

各営林署においては、業務方針に基づき知恵と汗を出してそれぞれ職員は、製作と販売に努力してきた。昨年度に比較して製作署、販売額とも相当の伸びがあった。

本年度当局の収入目標額に対しては、わずかであるが、営林署はそれなりに努力をし、収入確保に努めており、来年度も本年度以上にアイデアを出して推進しなければならない現状である。国有林が所有している資源をより以上に有効活用を図り、職員の創意工夫と意欲を積極的に向上させるため、それに見合った報奨等を検討する必要があると考えられる。